



### 3) 個別の状況

#### ①販売状況について

- ・ 中玉トマト            需要、単価ともに新型コロナ前のレベルまで回復した。
- ・ きゅうり            需要、単価ともに5月期は低調であったが、6月期以降は徐々に新型コロナ前のレベルまで回復した。
- ・ なす                単価は新型コロナ前と比べ1割程度落ち込んでいるが、需要は6月期以降、新型コロナ前のレベルまで回復した。
- ・ オクラ            気象状況等により、変動があるが、需要、単価ともに新型コロナ前のレベルで安定している。
- ・ 枝豆                単価は新型コロナ以前と比べ1割程度落ち込んでいるが、需要は新型コロナ前のレベルで安定している。
- ・ 菌床しいたけ       需要、単価ともに、新型コロナ前のレベルまで回復した。

#### ②今後の見通しについて

- ・ 中玉トマト、きゅうり等の施設園芸農家  
    次作に向けて、燃油の高止まりが懸念される上、肥料価格等の高騰により、今作と同レベルの生産を維持できるか不安。
- ・ なす、オクラ、枝豆等の露地栽培農家  
    新型コロナ前のレベルで安定した需要があるものの、生産資材等の価格上昇分が単価に反映されないことから、産地全体の生産量が減少することを懸念。
- ・ 菌床しいたけ農家  
    電気料金や菌床ブロックを形成するチップなど、生産資材の価格高騰により、経営規模を維持できるか不安。

## (2) 畜産業

### 1) 需要と単価の状況 (2022年5月期・6月期・7月期実績、8月期見込み)

	需要			単価		
	減少した	変わらない	増加した	下落した	変わらない	上昇した
2019年同期比 (新型コロナ拡大前)	46%	54%	—	39%	39%	22%
2021年同期比	41%	59%	—	39%	39%	22%

### 2) 生産資材等の価格の状況 (昨年の同期比)

- ・ 配合飼料 3割から4割程度上昇
- ・ 畜舎の敷料 2割から3割程度上昇
- ・ その他 電力、機械類、化石燃料由来の資材が2割から3割程度上昇

### 3) 個別の状況

#### ①販売状況について

- ・ 肉用牛 需要、単価とも上向きであるが、新型コロナ前のレベルまで回復したとは言い難い状況である。
- ・ 肉用鶏  
(阿波尾鶏舎) ブロイラーについては、安定した需要があるが、阿波尾鶏などの高価格帯商品は、需要、単価ともに低調な状況が続いている。
- ・ 鶏卵 単価は新型コロナ前に比べ上昇しているが、需要は新型コロナ前よりも2割程度減少している。
- ・ 養豚 需要、単価ともに、新型コロナ前のレベルで安定的に推移している。
- ・ 酪農 生乳の需要、単価は新型コロナ前のレベルで安定的に推移しているが、子牛の需要が落ち込んでおり、値段は5割程度下落している。

## ②今後の見通しについて

### ・ 全畜種共通

配合飼料をはじめとした生産資材の高騰は、これまでにない厳しい状況であり、生産規模の維持が不安。資材高騰に見合う単価の値上げが必要。

### ・ 養豚農家

生産資材等が高騰する中、ワクチンなど豚熱対策に係る衛生対策費の増加も経営を圧迫。

## (3) 水産業

### 1) 需要と単価の状況 (2022年5月期・6月期・7月期実績、8月期見込み)

	需要			単価		
	減少した	変わらない	増加した	下落した	変わらない	上昇した
2019年同期比 (新型コロナ拡大前)	60%	27%	13%	53%	34%	13%
2021年同期比	33%	47%	20%	26%	47%	27%

### 2) 生産資材等の価格の状況 (昨年の同期比)

- ・ 燃油 3割程度上昇
- ・ 化石燃料由来の資材 3割程度上昇
- ・ その他 電力、機械類が2割から3割程度上昇

### 3) 個別の状況

#### ①販売状況について

- ・ 鮮魚 (養殖ブリ、ハマ等) ハモやアマダイは、昨年と比較し、1割から3割程度、需要、単価とも上昇し、ちりめんも安定した需要、単価であった。しかし、タイやアカムツなど魚種によっては、需要、単価とも2割程度落ち込んでいるものもあった。

#### ②今後の見通しについて

### ・ 鮮魚

燃油が高止まりする中、発泡スチロールなどの出荷資材についても、冬までに、さらなる値上げが予告されている。

需要や単価が戻ったところで、今以上にコストが上昇すれば、経営はコロナ禍以上に厳しい状況。

#### (4) 林業

##### 1) 需要と単価の状況 (2022年5月期・6月期・7月期実績、8月期見込み)

	需要			単価		
	減少した	変わらない	増加した	下落した	変わらない	上昇した
2019年同期比 (新型コロナ拡大前)	37%	63%	—	—	26%	74%
2021年同期比	37%	63%	—	26%	34%	40%

##### 2) 生産資材等の価格の状況 (昨年の同期比)

- ・ 燃油 2割から3割程度上昇
- ・ 化石燃料由来の資材 2割から4割程度上昇
- ・ その他 電力、機械類、輸送費が2割から4割程度上昇

##### 3) 個別の状況

###### ①販売状況について

- ・ 素材生産業者 スギなどの原木の単価は、新型コロナ前と比較し、依然2割を越える水準を保っている。
- ・ 製材事業者 単価高は原料不足によるものであり、米松は8割程度も価格が上昇している。

###### ②今後の見通しについて

- ・ 素材生産業者  
国産材の需要が高まり、原木価格が上昇しているが、生産拡大のため、林業用機械の燃油使用量が増大しており、収益は価格上昇ほど伸びていない。このような状況の中で、安定的に素材生産を行うためには、人材の確保や計画的な設備投資が必要との認識。
- ・ 製材事業者  
コスト高の製造で収益が上がらない中、今後のさらなる物価高騰や資材不足に伴う、住宅着工の減少により、受注減や価格の下落が心配。